

13. 第22-23回高木レクチャーについて

第22回高木レクチャー(2018年11月)の報告と第23回高木レクチャー(2019年6月)の予定をお知らせいたします。

高木貞治先生の名を冠した講演会「高木レクチャー」は、卓越した数学者を日本に招聘し、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。講演は専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象として行われます。高木レクチャーをもとに書き下ろした研究総説は、講演の当日に「高木ブックレット」として配布され、その後、加筆修正された原稿は査読を経て *Japanese Journal of Mathematics (JJM)* に掲載されることになっています。

この趣旨に基づいた「高木レクチャー」の創設が2006年3月26日(日)、日本数学会評議員会で承認され、2006年11月に第1回高木レクチャーが京都大学数理解析研究所で開催されました。

第22回高木レクチャーは、以下のように開催されました。

日時: 2018年11月17日(土) - 18日(日)

場所: 東京大学大学院数理科学研究科

講演者:

- Yves André
(Université Pierre et Marie Curie)
“Singularities in mixed characteristic. The perfectoid approach”
(混標数における特異点: パーフェクトイド空間による方法)
- Fernando Codá Marques
(Princeton University)
“Abundance of minimal surfaces”
(極小曲面が豊富にあること)
- James Maynard
(University of Oxford)
“Around the Twin Prime Conjecture”
(双子素数予想をめぐる)

主催: 日本数学会

東京大学大学院数理科学研究科

組織委員: 小野薫, 河東泰之, 熊谷隆,

小林俊行, 斎藤毅, 中島啓

高木レクチャーの当日には、予稿の「高木

ブックレット」(iv+84頁)が配布され、それぞれ1時間×2回の講演が行われました。高木レクチャーのために書き下ろされた原稿の最終版の研究総説論文は査読後、JJMに掲載される予定です。

高木レクチャーの講演のビデオは日本数学会情報システム運用委員会と東大数理 Video Archives プロジェクトチームにより撮影編集が行われ、web上で一般公開する予定です。

次回の第23回高木レクチャーは、

日時: 2019年6月8日(土)

場所: 京都大学数理解析研究所

講演者:

- 甘利俊一
- Mikhail Kapranov (東大 IPMU)

主催: 日本数学会

の予定で開催いたします。

講演はそれぞれ2回ずつ行われます。最新情報は高木レクチャーのHP

http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~toshi/takagi_jp/

をご覧ください。

JJMは、2006年に廃刊の危機を乗り越え、3rd Seriesとして「新しい創造を引き起こすような研究総説論文」を掲載するジャーナルとして生まれ変わりました。

ジャーナルのホームページ

<http://www.springer.jp/JJM/>

では、最新の情報とともに、JJM 3rd Seriesに掲載された論文のアブストラクトの和訳も掲載しています。

(小林俊行 記)